

セイノーホールディングス株式会社  
2026年3月期 決算説明会 質疑応答録(2026/5/14)

【質問者1】

Q: 今期の輸送事業の44億円の増益の考え方として、数量、単価ともに増える計画ですが、単価は3月単月だと2.4%増加というところに対して、通期でプラス2.8%と見られているかと思えます。この営業利益計画と単価計画の位置づけ並びに蓋然性について、チャレンジングなのか、ここの水準感についてお伺いできればと思います。合わせて費用も上がっている中で、単価改定がうまくいかなかった時に減便等でのコストコントロールで十分対応可能なのか。ここの単価改定と利益水準の蓋然性についてお伺いできればと思います。

A: 今期は102.8%の単価改定であり、下期をベースにした交渉ができればと考えています。単価と物量と営業日数という形で利益計画を策定しており、物量は101.5%、単価で102.8%の利益計画を立てています。交渉自体は少し難易度が高いと思いますが、プラスアルファの価値提供をしっかり行いながら、交渉していきたいと考えています。

単価改定が計画通りに進まなかった場合でも、運行便の効率化も進めます。物量に相関しますが、物量が101.5%へ伸びる想定の中で、近距離便の見直しで延べ1万5,000便程度、曜日減便で5,000便程度の削減を図ります。これら12億円の効率化を合わせて進めることで、利益の確保を目指していきます。

【質問者2】

Q: 今回の計画の部分ですが、20ページ(2026年3月期 期首の想定⇒実績)の2026年3月期のこのような表で、利益増を分解して説明していただくことは可能ですか。また、総額があまり増えないような状況になっているので、費用がどうなっているのか、人件費や外注費などがどのようになっているのか、解説いただければと思います。

A: 昨年は輸送事業の増益が80数億円あったため表にまとめましたが、今回はその様な作り込みはしていません。利益の想定については、先ほど輸送事業の高橋が申し上げた物量と単価の改善により、利益貢献が28億円ほどはあると見積もっています。

MD ロジスについては一巡したため、昨年のような形での数字は織り込んでおりません。

一方、貸切の伸びによる利益もプラスになると考えており、ロジスティクスについても、先期に実施した費用先行の増床分から出る収入が利益に直結し、これらも寄与するであろうと考えています。さらに、運行便の効率化による12億円程度も、利益として読み込めると考えています。

前回のような形での説明ではありませんが、以上のような概算での数字の組み立てにて、今期の見通しをご説明させていただきました。

以上